

1 研究計画

(1) 研究主題

コミュニケーションの深まりを目指した授業づくり ～4つの観点を大切にした支援の在り方～

(2) 主題設定の理由

分教室の児童生徒は、いろいろな思いをもち、周囲からの働きかけに心を動かしている。しかし、そこで生じた思いを周囲の人が分かるように伝えることが難しく、受け取る側の教師も読み取りに難しさを感じざるをえないことがある。そこで、私たち教師は児童生徒をよく観察し、その微細な動きを見逃さないように心がけ、思いを受け止め応じることを繰り返しながら、気持ちを共有し合うことを積み重ねてきた。そうすることでお互いの心の距離が縮まり、コミュニケーションの第一歩を踏み出し、信頼関係が育っていくのではないかと考えるからである。

これまでの取組から、学校生活の中で育てる力の1つとして「周囲の人たちに自分の思いを伝えていく」といったコミュニケーションの力を育むことを確認し合った。また、人に思いを伝え、その思いが満たされ、周囲の人と関わっていくことで、児童生徒自身の生きる喜びになり、生きる力となっていくと考える。そのために毎日の学校生活の中で児童生徒一人一人の心の動きや感じ方、思いを身近な存在である教師が気づき、受け止め、言葉や表情などで返していき、安心した関係を築いていく上で、周囲の人と関わる経験を積み重ねることが、コミュニケーションの深まりにつながり、卒業後も病棟で過ごす児童生徒の豊かな生活に結び付くと考えた。

これまで分教室の授業づくりにおいては、児童生徒が主体的に活動するためには分かりやすい状況づくりを工夫することが必要だと考え、4つの観点「言葉掛け」「姿勢づくり」「教材・教具の工夫」「授業展開」を大切にしていって取り組んできた。昨年度は個別学習を取り上げ、教材・教具に焦点をあて一人一人の実態に応じた工夫・改善を通して、豊かな表現を引き出したり、身近な人とのやり取りを深めたり、自分から関わろうとする力などを育てたりしてきた。

そこで、昨年度までの個に応じた教材・教具の工夫・改善を含む4つの授業づくりの観点を生かした実践で培ってきたコミュニケーション能力を発揮できる場として、今年度は集団学習を取り上げ、その中でさらに育て深めていきたいと考える。そのために、授業づくりにおいては4つの観点からそれぞれのグループの実態に応じて焦点を絞り取り組んでいきたいと考える。加えて4つの観点に基づいた評価記録用紙を作成・活用していくことでより客観的な評価を行い、観点を意識した授業づくりや授業改善に生かしていくことが大切ではないかと考える。また、ケース検討会を実施し、実態把握や目標設定、指導内容そして個々のコミュニケーションが深まったときの姿を全職員で確認し合い、子どもたちの思いを受け止めどう引き出すのか、教師の関わり方や個を生かすための集団学習の在り方について見直し、改善していきたいと考えた。これらの実践を通してコミュニケーションの深まりを目指したいと考え、本主題を設定した。

(3) 研究仮説

4つの観点を大切にした支援を実践する中で、児童生徒一人一人の心の動きや感じ方、思いを教師が気づき、受け止め、言葉や表情などで応じることを大切に、安心した関係を築いていくとともに、周囲の人と関わる経験を積み重ねていくことで、コミュニケーションの深まりにつながり、卒業後も病棟で過ごす児童生徒の豊かな生活に結び付くのではないかと考える。

(4) 研究方法

①授業づくり

- ・朝の活動・朝の会を検証場面とし、各グループで年間目標や構成、指導内容などの見直しや検討をする。
- ・授業提示を通して、児童生徒の実態に応じ、「授業づくりにおいて大切にしたい4つの観点」を意識した授業であったかを協議し、授業改善に役立てる。
- ・公開授業研究会、校内授業研究会を実施し、外部専門家や校外からの参観者、校内職員等による評価を得て、より専門的、多角的に指導内容を検討する。
- ・4つの観点を大切にしたい授業評価記録用紙を作成・活用し、指導後の評価をする。また、より授業に生かすことができるように様式の検討・改善をしていく。

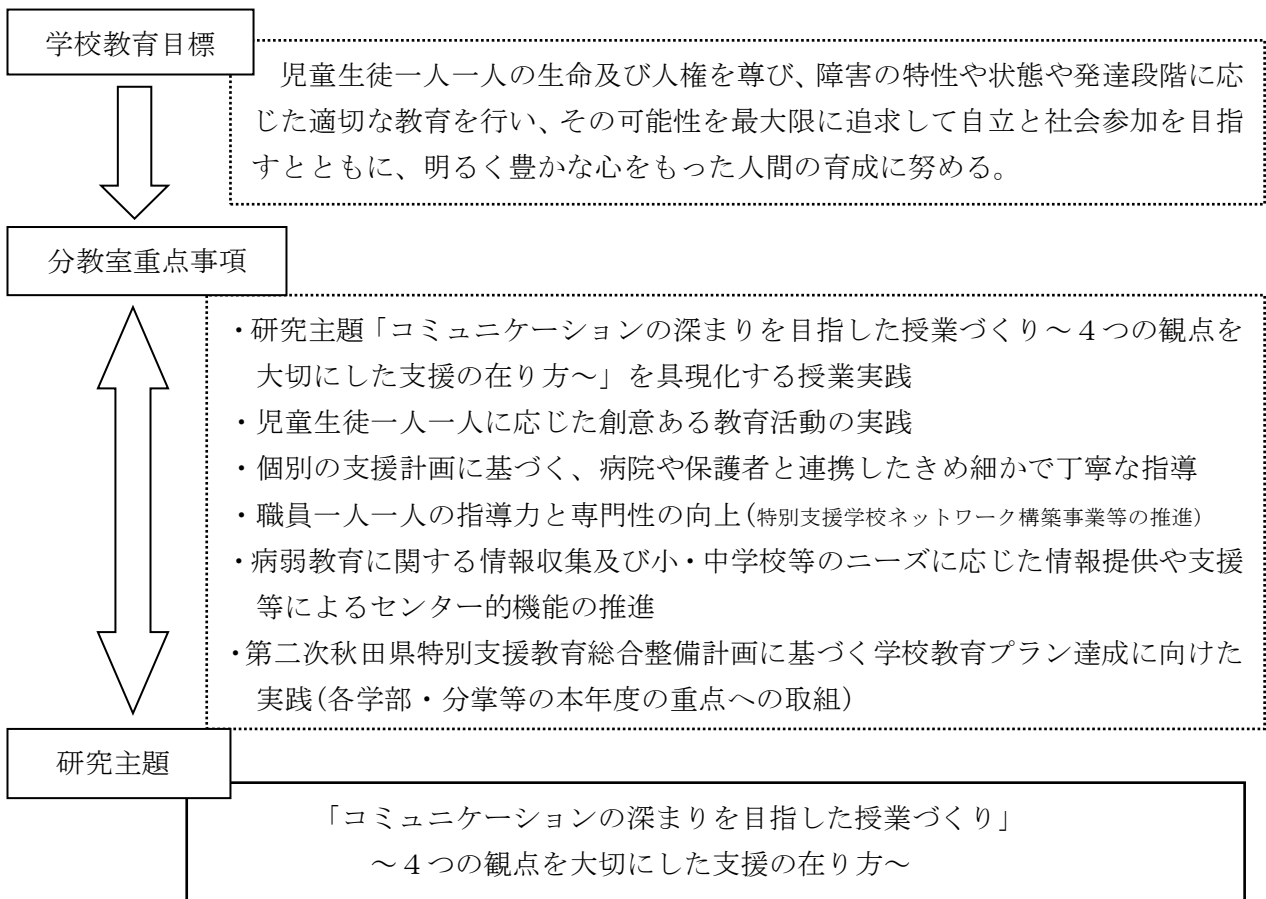
②ケース検討会(児童生徒一人につき年3回実施する)

- ・5月～個別の指導計画を基に児童生徒一人一人の実態、目標及びコミュニケーションが深まった姿について共通理解を図る。
- ・9月～中間評価を行い、これまでの支援が適切であったかを検証することで、成果・課題から改善点を見出し次時に生かす。
- ・2月～児童生徒の様子や変容を基に評価・確認し、次年度に向けての方向性について検討する。

③自立活動学習会及び教材・教具研修

- ・校内外の人材を活用しながら、自立活動や教材・教具についての研修を実施し、専門性の向上や日々の授業改善に役立てる。

(5) 全体構想図



(6) 年間計画

| 月 | 研究内容 | 具体的な内容 |
|----|---------------------|--|
| 4 | 学習会①、②、③ | ①自立活動について、②教材・教具の紹介、③摂食指導について |
| | 研究会① | ・今年度の研究計画についての検討 |
| | ケース検討会Ⅰ | ・実態、目標、コミュニケーションの深まりについての共通理解 |
| 5 | 研究会② | ・今年度の研究計画についての確認 |
| | 合同研究会① | ・本校・分教室相互の研究概要の確認 |
| | 学習会④ | ・朝の活動・朝の会について |
| 6 | 授業づくり検討会Ⅰ (グループ) | ・児童生徒の実態、目標、手立ての共通理解 ・指導目標や指導内容、題材構成の確認、検討 |
| | 指導案検討会①(グループ) | ・授業研に向けた指導案の検討 |
| | 学習会⑤ | ・重度重複障害児(者)のコミュニケーションについて |
| | 事前授業研① | ・Cグループの研究授業、授業研究会 |
| 7 | 事前授業研② | ・Bグループの研究授業、授業研究会 |
| | 授業研究会Ⅰ(公開) | ・Cグループ・Bグループの研究授業、授業研究会 ・指導助言、講演：NPO法人地域ケアさぽーと研究所 下川和洋氏 |
| | 教材・教具研修会① | ・講師：秋田県立大学 准教授 高山正和 氏 |
| 9 | 指導主事計画訪問 | ・授業提示 |
| | ケース検討会Ⅱ | ・実態、目標、コミュニケーションの深まりについての中間評価 |
| | 授業づくり検討会Ⅱ | ・朝の活動・朝の会における前期の振り返り、後期に向けて |
| | 学習会⑥ | ・他県の病弱特別支援学校の公開授業研究会・研修会 |
| | 研究会③ | ・前期の成果と課題の共通理解、後期に向けた授業改善 ・授業評価記録用紙の確認(改善も含む) |
| 10 | 学習会⑦ | ・東北病連研究協議会原稿読み合わせ |
| | 学習会⑧ | ・東北病連研究協議会報告 |
| 11 | 指導案検討会②(グループ) | ・授業研に向けた指導案の検討 |
| | 事前授業研③ | ・Aグループの研究授業、授業研究会 |
| | 授業研究会Ⅱ | ・Aグループの研究授業、授業研究会 ・指導主事による指導助言 |
| | 学習会⑨ | ・重度重複障害児(者)のコミュニケーションについて |
| 12 | 教材・教具研修会② | ・講師：秋田県立大学 准教授 高山正和 氏 |
| | 授業づくり検討会Ⅲ (グループ) | ・朝の活動・朝の活動におけるこれまでの振り返り |
| | 学習会⑩ | ・全病連研究協議会報告 |
| 1 | 研究会④ | ・研究の評価及び課題の整理 |
| | 学習会⑪ | ・秋田きらり特別支援学校公開研究会報告 |
| | 研究会⑤ | ・研究のまとめと研究紀要に向けて |
| 2 | 学習会⑫ | ・3県合同研修会報告 |
| | ケース検討会Ⅲ | ・児童生徒の変容、来年度のねらいについて |
| 3 | 研究会⑥ | ・研究のまとめと次年度計画に向けて |

2 研究の実際

道川分教室では、児童生徒の体調や病棟の状況等から、活動場所に制限がある児童生徒が増え、集団を構成できないケースが多くなってきた。そこで、今年度は学部や学年の枠にとらわれないグルーピングを工夫して、集団学習の保障に努めた。朝の会についても、学部や学年ごとの実施では2名までしか学習場所に集まることができないグループが多く、年間を通して集まることが可能な3グループに集約して実施することにした。朝の活動・朝の会は毎日取り組む活動であり、コミュニケーションの深まりを目指すには重要な活動である。1年間を通して継続的に授業づくりに取り組み、授業改善を続けていけると考え、検証場面として取り上げ、研究に取り組んだ。

(1) 各グループの実践

① Aグループ

i 実態

- ・ 中学部・高等部の3名からなるグループで、このうち1名は過年度卒業生である。
- ・ いずれの生徒も友達や教師と一緒に学ぶ学習活動では、集団の賑やかな雰囲気を感じ、笑顔になったり、友達の姿を見ようと視線を動かしたりする。

ii 年間目標

- ・ 様々な感覚器官への働きかけを受け、一日の始まりを安定した気持ちで、友達や教師と一緒に活動に取り組む。
- ・ 教師の歌い掛けや言葉掛け等の関わりを受け入れ、自分の気持ちを表情の変化や体の動きで表す。

iii 4つの観点を生かした授業づくり

【成果】

○「授業展開」

学習活動に見通しをもち、一体感を感じるための工夫

- ・ 3名が共通して好きな活動である「聞くこと」を中心とした構成とし、待ち時間が出ないような内容を設定した。
- ・ 見通しがもてるような決まった活動と期待感のある「お楽しみ活動」を組み合わせメリハリ（繰り返しの心地よい変化）を付け、生徒が想像したり期待したり考えたりするための十分な時間を確保した。



→ 従来の朝の会の形式にとらわれず、生徒が一番活用している感覚器官に働きかけることに重点を置いた授業を構成し、改善や検討を重ねながら繰り返し指導したことで生徒は見通しをもち、人や物からの関わりに応じて自分から視線や口を動かして活動に参加するようになった。

○「言葉掛け」「教材・教具の工夫」

人や物への気づき、関心が広めるための工夫

- ・ 生徒と思考を促すために言葉の質や量を吟味した。周囲の音環境も整理した。
- ・ 生徒の関心をひく音（楽器、病棟にない音、好きな音）、日本語の響きを意識した詩、情をイメージしやすい歌詞やメロディーをもつ歌を選んだ。

→ 「音」「楽器」をシンボルとして使用し、活動を進めるようにしたことで周囲の状況や人への気づき、関心の高まりが見られた。

【課題】 他の感覚器官への働き掛け

- ・ 生徒の実態に合わせスモールステップで段階的に指導を進め、生徒がより意欲的に活動に向かえるような活動内容や授業展開を工夫する。

iv 実践を振り返って

この授業を通して見られるようになったのは、「音が聞こえる状態」から「音に意識を集中して聞こうとする」という生徒の主体的な姿への変容である。

「聞く」ということは受け身に思われがちだが、言葉や周囲の音の環境を整理し、音の一つ一つに意味をもたせ、繰り返し働きかけることで、状況を理解し期待し満足するという生徒の充実した時間を作り出すことができた。

学習活動への見通しは他者への関心に広がり、相手の表出や教師の声に、友達と一緒に活動しているという一体感を感じている様子が表情の変化から読み取れるようになった。この、相手と通じ合っているという感覚が「共感」の一步であり、自発的な表出を受け入れてもらえるという安心感が相手とコミュニケーションを取ろうとする心の育ちにつながっていくと考える。

| ケース検討会 I (5月) …実態把握 | | |
|---|---|--|
| A | B | C |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 普段聞き慣れた音には、あまり驚かない。 ・ 快・不快がはっきりしている。 ・ 期待感をもって周囲からの声かけを楽しみ笑う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽がかかると目の動きが止まる。 ・ リラックスしていると黒目が目の中心にくる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 右手の親指がよく動く。 ・ 近くのものに注目する。 ・ 人に慣れてきた。 |
| 授業づくり検討会 I (6月) <ul style="list-style-type: none"> ・ 3名のうち2名は、昨年度も同じグループで朝の会を行っている。 ・ 1名は過年度卒業生で、久しぶりの学校生活にも慣れてきた。 ・ 昨年度の指導を継続しながら朝の会を行う。係活動については、個々の生徒の得意なこと、好きなことを生かしながら検討していく。 ・ 新たな試みとして3人の教師が月替わりで担当し、得意なことを生かしながら行うお楽しみコーナー(活動)を取り入れる。 | | |



〈目指す朝の会〉

「一体感」



| ケース検討会 II (9月) …変容の確認と共通理解 | | |
|---|---|---|
| A | B | C |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 決まった働き掛けや合図に応じる動きが確実にようになってきた。 ・ マッサージの決まった歌で笑う。 ・ 気持ちさがさらに安定し、突然の音に驚くことが減った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 表情がよく、落ち着いている日が増えた。 ・ 朝の会で口がタイミングよく動くようになった。 ・ 身近な人の声にも口を動かすようになった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉掛けに合わせて右手の親指がタイミングよく動く。 ・ 特定の人への笑顔が多くなった。 ・ 表情の違いがはっきりと分かるようになった。 ・ やりとりの素地ができてきている。 |
| 目 指 す 姿 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 物を介して身近な人とやりとりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 人との関わりを広げる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 得意な指の動きを生かして身近な人と関わる。 |

授業づくり検討会 II (9月)

- ・ 限られた空間の中、お互いを意識できる位置を決めたことで、教師からの関わりを受け入れ落ち着いて学習に取り組むことができた。
- ・ Aがノックして入室することで聞くことへの意識付けを図り、朝の会の期待感を高めた。
- ・ 本人たちの様子に合わせて進めることで、担当教師と生徒のやりとりを他の生徒が聞くようになった。
- ・ 教材・教具を吟味し、入れ替えながら生徒に合う物を検討する。



〈改善へ向けて…目指す朝の会〉

「共感する」

授業研究会 II (11月) (評価記録用紙1、2より※)

◎21 「学習の流れを一定にし、見通しをもてるような繰り返しの活動を設定していた。」
 ・ 繰り返しの活動を積み重ねたことで見通しや期待感をもち、安心して活動に取り組んでいた。

◎25 「活動を十分に楽しめるような学習活動の確保と時間配分の工夫をしていた。」
 ・ 生徒の反応をじっくりと待ち、意欲が高まるような教材や詩の音読が効果的に生かされていた。

△7 「生徒の様子を分かりやすく伝えるためにTTが連携して言葉掛けの工夫をしていた。」
 ・ 呼名でよい返事をしたときは、どこがよかったのか具体的に伝えた方がよい。

△26 「生徒同士が気付き、関わり合える場面の設定をしていた。」
 ・ 生徒同士の関わりをどう教師がつくっていくのか検討が必要

※ 「・」は評価記録用紙1の記述欄より転記。

評価記録用紙2より、「◎」は評価の高かった項目、「△」は評価の低かった項目。



授業づくり検討会 III

(詳細は「iv 成果と課題」に記載)

② Bグループ

i 実態

- ・小学部3年1名、中学部2年1名、高等部1年2名の計4名からなるグループで、うち1名は過年度卒業生である。
- ・昨年度も一緒に学習していた3名は友達に気付き、視線を向けたり笑顔になったりしている。過年度卒業生の1名は、入学当初戸惑い、表情を硬くしていた。

ii 年間目標

- ・登校準備を通して学校の始まりに気付き、学習への期待感をもつ。
集団の中で返事や係活動に取り組み、発声や表情の変化、身体の動きで自分の意思を表す。
- ・グループの友達や教師が分かり、注目しあったりやり取りを楽しんだりする。

iii 4つの観点を生かした授業づくり

【成果】

○「授業展開」

4人が一体感を感じながら活動に取り組むための工夫

- ・体操のコーナーは、音楽に合わせて、歌いながら身体をタッピングやマッサージをして、笑顔や心身の覚醒を促した。
- ・歌のコーナーでは友達存在を身近に感じ、楽しい雰囲気を分かち合えるよう、プレイバンドを使用して歌に合わせて引っ張り合った。

○「教材・教具の工夫」「言葉掛け」

お互いを意識するための工夫

- ・使用する児童生徒の実態に合わせて工夫することに加え、周囲の児童生徒の視線を集めることで互いを意識できるよう、音や光の刺激を加えるなどの工夫をした。
- ・友達の活動に注目できるよう、T2以下は言葉掛けを控えた上で見守る支援を心がけ、支援のメリハリをつけた。

【課題】 個々の目標の共通理解

- ・グループの目指す姿や個々に必要な支援、教材・教具について検討し共通理解が進んだが、児童生徒の変容を受けて変わった目標やねらいをより深く共有する機会を設定する。

iv 実践を振り返って

本グループで重視した一体感を感じられるように行ってきた支援は、児童生徒がグループの学習で安心感を得ることにつながったと考える。この安心感は、児童生徒がもっているコミュニケーションの力を発揮するためのベースとなり、このベースが満たされることで視線や注意を教師から友達へと広げることができたのではないだろうか。コミュニケーションを深めていくためには、児童生徒がもっている力を発揮するためのベースづくりが大切であることを改めて感じた。

| ケース検討会Ⅰ（５月）…実態把握 | | | |
|---|---|--|---|
| A | B | C | D |
| <ul style="list-style-type: none"> ・身近な人を見て笑う。 ・動く人をじっと見ている。 ・表情の変化はないが、映像をじっと見る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・身体を自ら動かそうという気持ちが見られない。(担当PTより) ・手が比較的良く動いている。(担任) | <ul style="list-style-type: none"> ・状況を取り込む力が弱いので慣れるまで時間がかかる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習の環境が変わり戸惑っている。 |
| 授業づくり検討会Ⅰ（６月） <ul style="list-style-type: none"> ・４名のうち３名（A、B、D）は昨年度も同じグループで朝の会を行っている。 ・１名（C）は過年度卒業生で、表情が硬かったが徐々に笑顔が見られるようになってきた。 ・朝の会では、個々の児童生徒と教師の間のやり取りが多くを占めている。 ・名前を呼ばれたとき顔を上げて笑顔になったり、友達の動きや教材を見て発声や表情で気持ちを表す姿が見られるようになってきた。 ・各自の得意な動きを生かした係活動を行うことで、提示した教材に触れながら自分の順番や係に気付き、意識も高まっている。 | | | |



〈目指す朝の会〉
「みんなで仲良く」「一体感を感じられる」

| 授業研究会Ⅰ（７月） | (評価記録用紙１、２より※) |
|---|----------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ◎ 14 「目標達成のためにニーズに合った興味・関心の高い教材・教具であった。」 ◎ 16 「児童生徒の表出を引き出すような教材・教具であった。」 <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の役割がはっきりと分かるような教材の工夫がされている。 △ 3 「児童生徒の実態に応じて分かりやすく、具体的な言葉掛けをしていた。」 <ul style="list-style-type: none"> ・呼名のときは呼ばれている生徒だけを見るのではなく、自分の隣の児童生徒が、呼ばれている児童生徒に目を向けたり手を伸ばしたりした様子拾うと良い。 △ 9 「児童生徒の見え方を意識した教師の立ち位置を工夫していた。」 <ul style="list-style-type: none"> ・輪になって見える配置であったが、個々が注目できる距離や位置という点では別の配慮が必要。 | |

※ 「○」は評価記録用紙１の記述欄より転記。
評価記録用紙２より、「◎」は評価の高かった項目、「△」は評価の低かった項目。



| ケース検討会Ⅱ（９月）…変容の確認と共通理解 | | | |
|---|---|---|--|
| A | B | C | D |
| <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み明けは調子が良い。起きていることが多い。 ・表情、顔つきが大人っぽくなってきた。 ・声が出なくなってきた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・身体や手がよく動く。意図が感じられる。 ・覚醒している時間が長くなってきた。話しかけられるとその方向を向く。 ・体幹を保持する力が強くなってきた。手を動かす力も強くなってきている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・表情が柔らかくなった。声をかけても顔をそむけなくなった。 ・初めてのことは苦手だが繰り返すと楽しめるようになった。 ・声が出なくなった。興味のある物にも手が伸びなくなった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教師の言葉掛けへの応答や朝の会での呼名への返事が定着した。 ・笑顔が少なくなった。いつでも誰にでも笑うのではなく、状況にしっかり対応して笑っている。 |
| 目指す姿 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・覚醒する。 ・声を出す。返事をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・意図的な動きを確実にする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分から手を伸ばして変化を起こす。 | <ul style="list-style-type: none"> ・笑顔が多くなる。 ・友達と関わりが広がる。 |

| 授業づくり検討会Ⅱ（９月） |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・「今月の歌」コーナーでプレイバンドを使って一緒に引き合ったり、体操の時間には全員の教師と触れ合えるようにしたりして、「みんなでやると楽しい」と感じられる朝の会の授業づくりを行った。一体感が出てきて、楽しい雰囲気づくりができた。 ・教師がそれぞれで話さずに、言葉掛けを敢えて減らし生徒が注目すべき対象に注目できるよう配慮した。 ・お互いを気にしている様子はあるが、AとBにとってCの存在がまだ不確実に感じる。 ・体操で楽しい雰囲気を作ったり、始まり方と終わり方を工夫したりして、みんなと一緒にという楽しい気持ちをもてるようになった。 |



〈改善へ向けて…目指す朝の会〉
「みんなで仲良く」「一体感」から「お互いを意識する」



| 授業づくり検討会Ⅲ（１２月） |
|--------------------|
| (詳細は「iv 成果と課題」に記載) |

③ Cグループ

i 実態

- ・高等部2年男子2名、女子1名、高等部3年男子2名、女子1名の計6名のグループで、内5名は過年度卒業生である。2名はベッドサイド学習のため学習室に集合できない。そのため、学習室とベッドサイドの3か所をiPadで繋ぎ、双方向同時中継をしながら朝の会を行っている。
- ・学習室で参加する4名は、一緒に活動する中で仲間として意識するようになり、友達に視線を向けたり、教師の促しに応じて友達と教具のやりとりしたりする姿が見られてきている。また、ベッドサイドの2名は中継を楽しみにしており、学習室からの音声や映像が流れると覚醒が高まり、関心をもって参加している。

ii 年間目標

- ・登校準備を通して学校の始まりを意識し、学習への期待感をもつ。
- ・自分の得意な動きを生かしながら返事や係活動に取り組む。
- ・友達や教師の様子に関心をもち、視線を向けたり働きかけを受け入れて関わろうとしたりする。

iii 4つの観点を生かした授業づくり

【成果】

○「教材・教具」

友達の存在に気付き、身近に感じて意識を高めるための工夫

- ・生徒同士で直接手渡しすることができる「バトン」や「お天気マスコット」を使用した。
- ・教材の長さ、重さ、感触などの工夫や回す順番、言葉掛けの精選やタイミング、友達との距離や配置などの工夫、改善を積み重ねた。



はじめは教師と一緒に手渡していたが、自分に近づいてくると視線を動かしたり、受け取った後にずっと待ち続けていたり、また、一人で友達に渡そうとする生徒も見られるようになった。

- ・ベッドで参加する生徒は、iPadを通しての関わりが高まるように、同じ教材を準備し、画面を通して間接的なやりとりをした。



iPadを通して参加している生徒も、画面を通してバトンが近づいてくると、視線を向けたり、手を動かしたりする様子が見られ、友達から受け取ろうという意識の高まりが見られた。

【課題】言葉掛けの工夫、時間の保障、他の授業場面でのやりとりの広がり

- ・生徒同士がやりとりする場面で相手への意識が高まるように、抑揚やリズム、タイミングなどの言葉掛けの工夫やバトンを受け渡す際の時間の保障を心掛ける。
- ・他の教材でのやりとりや朝の会以外の場面でのやりとりへも発展させる。

iv 実践を振り返って

「一緒に朝の会をする仲間かな」「一緒にいて楽しいな」という雰囲気や場を共有するところからのスタートであった。バトンなどの教材をやりとりすることを日々継続してきたことで、見通しや安心感をもち、生徒同士の主体的・直接的な関わりを引き出すことができたと考える。また、物を介してのやりとりが、バトン以外の物や朝の会以外の場面でも見られるようになり、コミュニケーションの深まりへとつながってきたと感じられた。

| ケース検討会Ⅰ（5月）…実態把握 | | | | | |
|--|---|---|--|--|---|
| A | B | C | D | E | F |
| <ul style="list-style-type: none"> ・iPad機器から聞こえる音をよく聞いている。 ・担任と二人の朝の会と機器を使つての朝の会とは、反応が違う。 ・人と関わるのが好き。 | <ul style="list-style-type: none"> ・話しかけられると笑顔、人の動きをよく見ている。 ・担任には怒ったり呼名されても笑顔にならなかつたり様々な表情を見せる。 ・口調や声色がわかり、表情を変える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活に見通しをもつようになってきた。不安定になつても落ち着きを取り戻せるようになってきている。 ・自分の好きなものをわざと落として「拾って」というように担任の手に触れる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の朝の会では教師と一緒に教具を友達に手渡していた。 ・物に対する興味関心が高い。 ・やってほしい気持ちを教師の手を引くことで伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・担任や特定の人から関わってもらうことを待っていることがある。 ・マラカスが好きで持つことで気持ちが安定する。振ったり叩いたりしてそのときの気持ちを表す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを表情や手の動きで伝えようとする。 ・話しかけてくれる人をじっと見る。 ・興味のある物を追視する。 ・iPad中継が始まると、覚醒が高まり、画面越しからの呼びかけに反応する。 |

授業づくり検討会Ⅰ（6月）

- ・常時ベッドサイド学習の2名は朝の会のiPad中継で友達と一緒に活動することを楽しみにしている。
- ・中継時は覚醒状態が良くなつたり手を動かしたり画面に注目したりすることが多い。
- ・バトンは教師と一緒に手渡す。
- ・他の4名も友達に視線を向けたり教師の促しに応じて友達と教具をやり取りする姿が見られるようになってきている。
- ・4人で集まっている雰囲気は十分に感じている（視線や体の向きなどから友達を意識している）

〈目指す朝の会〉
友達や教師からの働きかけに気づき、互いに意識し、主体的に友達と関わる

授業研究会Ⅰ（7月）（評価記録用紙1、2より※）

△3：児童生徒の実態に応じて分かりやすく、具体的な言葉掛けをしていたか。
 ◎14：目標達成のためにニーズに合った興味・関心の高い教材教具であったか。
 ・バトンへ渡し手が相手を見たり、受け手が期待して持ったりしている姿が見られた。
 ◎15：好きな物、身近な物を活用し、安心して無理なく活動できる教材・教具であったか。
 △18：見やすい大きさ、高さ、色など一人一人に応じた工夫をしていたか。
 ・バトンへ細長くて軽い物は持ちやすく、短くて車いすに乗っていると届きにくい。自分で渡したという実感を高める工夫が必要。
 △19：生徒の気づきを促す提示の仕方・時間・背景を工夫していたか。
 ◎21：学習の流れを一定にし、見通しをもてるような繰り返しの活動を設定していたか。
 ・バトンタッチも繰り返しの活動で、見通しをもてるようになってきた。

※「・」は評価記録用紙1の記述欄より転記。
 評価記録用紙2より、「◎」は評価の高かった項目、「△」は評価の低かった項目。

| ケース検討会Ⅱ（9月）…変容の確認と共通理解 | | | | | |
|--|--|--|--|---|--|
| A | B | C | D | E | F |
| <ul style="list-style-type: none"> ・手をよく動かすようになった。 ・興味のあるものには表情が明るくなる。 ・読み聞かせで悲しい雰囲気を感じとり泣くことがある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶などそれに応じた返答が見られる。 ・友達の言動、様子に対して自分なりの反応や対応が見られる。 ・教師がいなくても、バトンに自分から手を伸ばしてやりとりができています。 | <ul style="list-style-type: none"> ・朝の会では友達の顔を見ることができている。 ・自分の中で大切なことや興味のあることは、安定して取り組める。 ・物を介して人への関心が高まっている。 ・得意げな表情を見せる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・人を意識して物を渡すことができた。 ・友達にバトンを握らせようと軽く握られた友達の手にはバトンをねじ込んで渡そうとした。 ・自分から友達の背中にタッチするなど関わりが増えた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・表情が豊かになった。 ・担任との関わりを楽しむ様子が見られた。 ・周囲からの関わりを受け入れるようになった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・機器を持ってきてくれる教師を意識し、よく見る、動きを視線で追う。 ・相手にわかりやすい表情で気持ちを伝えることが多くなった。 ・画面を通して名前を呼ばれると返事を確実にする。 |

目指す姿

| | | | | | |
|--------------|-----------|----------|-------------|---------|--------------------------|
| たくさんの人とのふれあい | 友達との深い関わり | 友達との場の共有 | 友達との直接的な関わり | 朝の会での発声 | 関わりへの広がり これまでの力の維持、発揮 |
|--------------|-----------|----------|-------------|---------|--------------------------|

授業づくり検討会Ⅱ（9月）
 効果的だった手立て

- ・グルーピング
- ・教材の受け渡し（バトン、お天気マスコット）
- ・iPadで画面を通し、呼名する。
- ・バトンを渡す友達に注目できるような言葉掛け。
- ・言葉掛けをタイミングや生徒によって変える（抑揚やリズムなど）
- ・朝の会の生徒の座席位置（円になり距離を縮めたことで意識が高まった）
- ・渡す友達に注目できるように教師の立ち位置や支援のタイミング

変容

- ・教材を近く友達に向けて渡したり、受け取ったりすることができた。生徒対教師だけでなく同じグループの生徒間でもやりとりができるようになりつつある。
- ・友達同士で直接触れ合う機会が増えた。
- ・ベッドサイド学習の生徒は同じ場所での朝の会の回数は減ったが、iPadを活用することで画面に意識を集中して見ており、参加意識が高まった。
- ・同じ係活動（役割）を繰り返す行つたことで、自分の順番が分かり見通しをもち関わっている様子が見られてきた。

〈改善へ向けて・・・目指す姿〉
 ○友達をより意識し、働きかけに応じる。 ○コミュニケーションを広げる（朝の会以外の場面、バトン以外のやりとり）。

授業づくり検討会Ⅲ
 （詳細は「iv 成果と課題」に記載）



(2) ケース検討会、授業づくり検討会

① ケース検討会

個別の指導計画を活用しながら、目標や手立て及び評価、支援の在り方について共通理解を図ることを目的に年3回行った。また、話し合いの内容や確認できた成果を効果的に生かせるよう、授業づくり検討会②と連動させ、グルーピングを工夫した。

| | 期 間 | ね ら い | グルーピング |
|-----|-----------------|--|-------------------------|
| I | 4月28日～ 5月12日 | 目標立案、 コミュニケーションの深まりについて意見交換 | 担当1名 同学部、元担当4～5名 |
| II | 9月1日～ 14日 | 中間評価、4月からの変容と変容のきっかけ、 これから目指す姿と改善点 | 朝の会を行っている3つのグループ |
| III | 2月16日～ 26日 | 評価や次年度の目標等に関する意見交換 今年度の目標と取組、児童生徒の様子や変容 | 担当1名と今年度主に指導にあたった職員の計4名 |

② 授業づくり検討会

研究対象の「朝の活動・朝の会」の授業づくりを目的に、グループごとに年3回行った。検討会の後、全体の場で報告をする機会を設け、各グループの取組を全体で共通理解した。また、授業づくり検討会Ⅱは、同じグループで行ったケース検討会Ⅱの最後に行い、一人一人の変容や成長を授業づくりに生かせるよう工夫した。

| | 期 間 | 話し合った内容 |
|-----|--------------|--|
| I | 6月1日 | ・グループの児童生徒について実態の確認と共通理解 ・朝の活動、朝の会の内容 ・個々の課題設定と教材・教具 |
| II | 9月14日 15日 | ・コミュニケーションの深まりの具体的な姿（変容） ・目指す朝の会と改善策 ・グループのコミュニケーションの深まり |
| III | 12月11日 | ・Ⅱを受けて実施した改善策の効果 ・グループや個人の変容 ・成果と課題、来年度へ向けて |

(3) 自立活動学習会

自立活動についての研修を通し、専門性の向上と授業づくりに役立てることを目的として行った。実施状況は次のとおりである。

| 回 | 月日 | 内 容（講 師） |
|----|-------|---|
| 1 | 4/17 | ・自立活動の内容 |
| 2 | 4/21 | ・教材・教具 |
| 3 | 4/23 | ・摂食指導 |
| 4 | 5/26 | ・自立活動の朝の会について |
| 5 | 6/18 | ・重度重複児（者）のコミュニケーション支援について (ゆり養護学校教頭 館山峰夫先生) |
| 6 | 9/17 | ・青森県特別支援教育研究会病弱虚弱教育部会研究大会 報告 ・青森県立浪岡養護学校第2回合同公開研修会及び授業検討会 報告 |
| 7 | 9/29 | ・東北病連岩手大会 発表事例について |
| 8 | 10/22 | ・東北病連岩手大会 報告 |
| 9 | 11/18 | ・障害の重い子どものコミュニケーションについて (秋田きらり支援学校教諭(兼)教育専門監 二階堂悟先生) |
| 10 | 12/14 | ・全病連京都大会 報告 |
| 11 | 1/14 | ・秋田きらり特別支援学校公開研究会 報告 |
| 12 | 1/27 | ・3県合同研修会 報告 |
| 13 | 3月(7) | ・出張報告(病弱教育広域ネットワーク事業関連) |

(4) 教材・教具研修会

① ねらい

児童生徒の活動意欲につながり、自発的に取り組みやすい教材・教具を製作し授業に活用する。また、専門的な方からの作り方の指導を受け、教師の製作意欲につなげる。

② 日程

第1回 平成27年8月3日




第2回 平成27年11月30日

場所 秋田県立大学本荘キャンパス 創造工房

講師 システム科学技術部 准教授 高山正和氏

③ 実施にあたって

児童生徒の実態と教育活動の背景等を考慮して、必要とする教材・教具について職員にアンケート調査を実施し、次のスイッチ教材を製作する研修会を依頼した。

| | 第1回研修会（8月） | | 第2回研修会（11月） |
|---------|---|---|--|
| アンケートから | 壊れにくく、もう少し長い時間録音できるVOCAがほしい。外部スイッチ（棒スイッチ等）を取り付けられるとよい。 | ベッド上でも学習できるよう手のひらサイズのスイッチ教材で、スイッチに触れたり押したりすると光って音がするものがほしい。 | iPadのタップ（指でタッチパネルを押す・さわる操作のこと）を助けてくれる機器を使い、外部スイッチ（棒スイッチ等）を押して、iPadに取り込んだ音楽等を流せるようにしたい。 |
| 名称 | おむすびケース VOCA | 改造ドアホン | i+Pad タッチャー |
| 写真 |  |  |  |

④ 研修内容

はじめに、外部スイッチ等を取り付けるために卓上ボール盤による穴開けの仕方を指導してもらい、そのあとグループに分かれて製作を行った。適宜はんだ付けや配線図のつなぎ方等を指導していただき、グループのメンバー同士で協力して取り組んだ。専門的な知識のある高山准教授に分かりやすく指導していただいたことで、穴開けやはんだ付けに慣れ、以前より手際よく作業に取り組む職員が多く見られた。

～教材・教具研修会の様子～



3 成果と課題

(1) 授業づくり

① 4つの観点から実態に合わせて焦点を絞った授業づくりの実践

【成果】

目標の明確化

- ・グループのコミュニケーションの深まりはどのような姿であるか確認し、4つの観点のどこに焦点を絞って取り組んでいけばよいか共通理解した。
- ・児童生徒一人一人の朝の活動・朝の会の目標からグループの目標を検討し、共通理解した。

学習内容や学習環境の整理

- ・コミュニケーションを深めるためにどのような学習内容や教師の支援が適切であるか検討し、改善した。

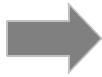


ステップを踏みながらグループ全体のコミュニケーションの深まりにつなげた。図1は、コミュニケーションの深まりに向けての授業づくりによって導き出された具体的な支援をまとめたものである。

【課題及び改善に向けて】

共通理解

- ・4つの観点を意識した授業づくりは定着してきているが、大切にしたい観点を絞るという意味が徹底されておらず、絞ることで他の観点への意識が弱くなり、また、絞った観点のみの支援を工夫していかなければならないという縛りとなり難しく感じたという意見もでた。



絞るということが4つの観点のどれかを捨てるのではなく、すべて大切にしながらもいくつかの観点到焦点を当てるといった共通理解を明確に行う必要があった。

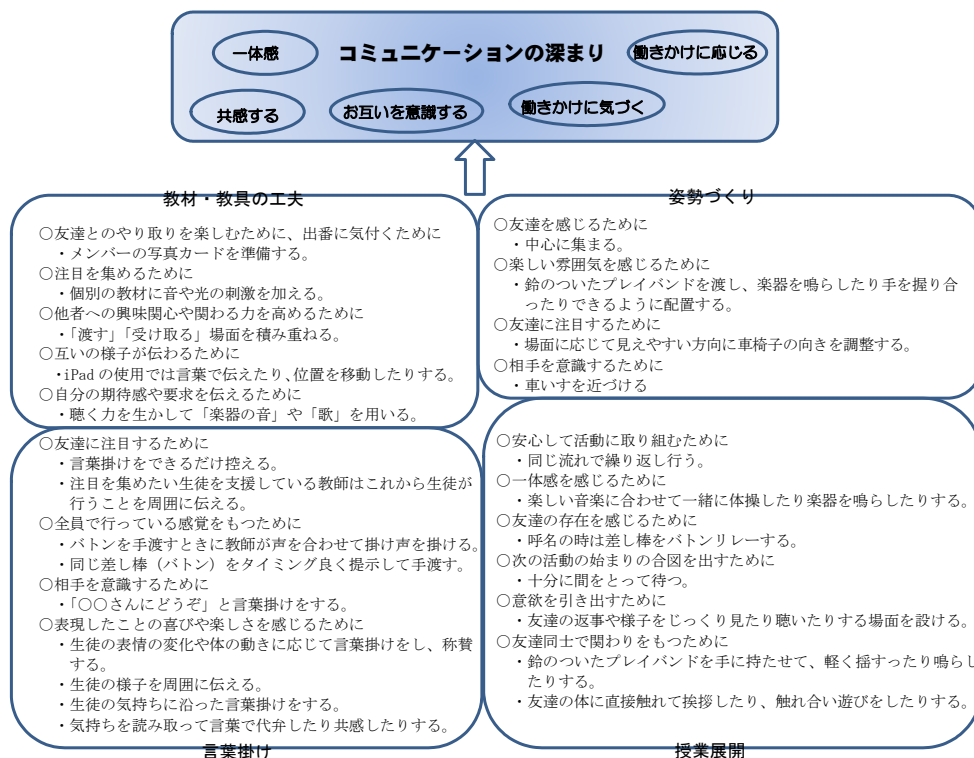


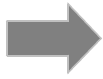
図1 コミュニケーションの深まりへ向けた4つの観点到に沿った支援

②授業づくり検討会の実施

【成果】

授業改善に向けた話し合いの機会の設定

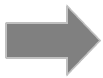
- ・「年度当初」「研究授業の前後」「中間評価」を機会として朝の活動・朝の会のグループごとに適宜実施した。
- ・各グループの取組を報告し合う機会を設定し、全職員で共通理解を図った。



4つの観点のうち実態に応じてどこに焦点を当てると効果的かなどについて話し合いを深めた。より観点を意識した授業づくりにつながった。

評価・確認の共有

- ・グループの目指す姿についての検討に加え、児童生徒一人一人の変容や成長について評価・確認し、学習内容や教師の支援について工夫改善を進めた。

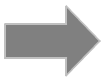


複数の視点から、児童生徒一人一人の変容、グループ全体の変容について確認しながら個の育ちを集団の育ちへとつなげることができた。

【課題及び改善に向けて】

微細な表情や動きの変化の確認

- ・直接参観することで授業全体の雰囲気や教師や児童生徒の動きなどに気づくことができるが、微細な動きや内面の動きについては分かりづらい部分もあった。



授業の様子をVTR撮影し、児童生徒の微細な表情や動きの変化を拾い上げ確認したり、指導の在り方を検証したりする機会を設けていきたい。

③評価記録用紙の活用

【成果】

観点を意識した授業参観と評価

- ・評価項目を4つの観点到に分け、より細やかな評価ができるように道川分教室の評価記録用紙として作成、活用した。



4つの観点到に沿った細かく客観的な評価をすることができた。また、4つの観点到に基づいて自分自身の支援の在り方を振り返るきっかけにもなり、観点を意識した授業づくりに結びついた。

協議の観点到の明確化

- ・評価記録用紙を基に、観点到や評価項目に沿って話し合いを進めた。



研究協議会での協議の観点到が絞られ話し合いがスムーズに進んだ。また、授業参観ではどの部分に焦点をあてて参観すればよいか明確になった。

【課題及び改善に向けて】

活用時期、方法

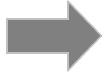
- ・日常的な活用の実施は難しく、研究会のみの活用にとどまってしまった。



実施時期、回数、方法を検討し、授業改善に結びつけていきたい。

様式、評価項目の検討

- ・個別学習の評価記録用紙を生かした様式であったため、一度に多くの児童生徒を評価し、記入する難しさがあった。



集団学習の評価で活用しやすいように様式の検討をしていきたい。

(2) ケース検討会の実施について

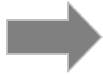
【成果】

多角的、多面的な実態把握や的確な目標設定

- ・児童生徒の実態がわかる職員でグループを編成して実施した。

変容の共通理解

- ・2回目では、授業づくりに生かせるように授業づくり検討会と連動させて実施した。一人一人のコミュニケーションの深まりの姿を共通理解した。



- ・多角的、多面的に実態把握でき、的確な目標設定に結びついた。
- ・一人一人の変容を確認し、照らし合わせながら授業づくりに生かすことができた。
- ・卒業後の姿や生活をイメージした話し合いができ、そのために今何が必要であるか考える機会となった。

【課題及び改善に向けて】

グループ編成の工夫

- ・年間を通して継続的な話し合いを行い、授業づくりに生かせるようなグループ編成について検討する。

全職員での共通理解

- ・各グループのケース検討会の話し合いの内容を全職員で共有するために、成果を確認する機会を設ける。

(3) 自立活動学習会や教材・教具研修会の実施について

【成果】

定期的な実施

- ・定期的に学習会や研修報告会を実施した。

専門的な知識や技術の習得

- ・専門的な立場や講師から、障害の重い子供のコミュニケーション支援について具体的な事例を交えながら学ぶ機会を設定した。
- ・県立大学の協力を得て、教材・教具に関する専門的な知識や技術を学ぶ機会を設定した。



- ・新しい情報を共有し、普段の授業に生かすことができた。
- ・児童生徒が、自分から取り組みやすい教材・教具を製作でき、授業での活用の幅が広がった。

【課題及び改善に向けて】

専門的な知識の向上

- ・専門的な知識を向上させるために、自立活動学習会の内容を検討する。

研修内容の検討

- ・県立大学の講師の先生の負担や職員の製作意欲の向上を考慮し、研修内容等を検討する。

4 考察

実態に即した朝の会のスタイル

今年度は、朝の活動・朝の会を授業づくりの検証場面として取り上げ、3グループでコミュニケーションの深まりを目指して取り組んだ。各グループの実態に合わせて授業づくりにおいて大切にしたいと考える4つの観点の中から焦点を絞り継続的に実践したことでグループに必要な支援が充実し、児童生徒の変容が見られた。また、これまでの朝の会の一つ一つの活動を吟味し、改善を試みたことで、各グループの特色が表れた朝の会のスタイルができあがった。児童生徒にとって必要な朝の会とはどのようなものなのか、自立活動と関連させながら考える良い機会にもなった。

コミュニケーションの深まり

どのような集団学習においても基本となるのは、私たち教師が児童生徒一人一人の心の動きや感じ方、思いに気づき、受け止め、丁寧に応じる一対一の関わりである。その上で児童生徒の実態をより細やかに捉え、個々のもっている力や興味・関心を生かした活動を取り入れたことや、意識していつもと同じ流れ、係活動などを繰り返したことで、安心感や心の余裕、見通しが生まれ、主体性につながることを確認できた。そして、いつもと同じ仲間と積み重ねる朝の会を通して、周りの友達への気付きや関心が広がり、みんなと一緒に活動することは楽しいと感じ、一体感が生まれ、友達と通じ合っているという感覚や関わろうとする心が育ち、コミュニケーションが深まるということも確認できた。

卒業後の豊かな生活

Aグループは、生徒の実態や活動制限の事情から病室で朝の会を行っている。その病室には本分教室の卒業生もおり、毎日行われる朝の会の賑やかな雰囲気を感じ取り一緒に楽しんでいる。この姿から、学校生活で培ったコミュニケーションの力が卒業後時間がたっても心の奥底に残り、ふとした瞬間によみがえることが感じられた。今後も、卒業後の豊かな生活に結び付くための取組をじっくりと深めていきたい。

5 まとめ

今年度の研究は、グループの実態に応じて分教室で大切にしたいと考える4つの観点の中から焦点を絞り、授業づくりに取り組むことや、検証の場面を集団学習の一つである朝の活動・朝の会を設定して実践することを通して児童生徒のコミュニケーションの深まりを目指してきた。

検証の場面を朝の活動・朝の会にしたことにより、継続的な実践を積み重ねることができ、個別学習でじっくりと培ったコミュニケーションの力を集団の場で発揮したり、深めたりすることができた。各グループとも児童生徒の表情の変化、視線や手や足など体の動きや仕草の頻度などから、変容につながっていることを確認することができた。授業づくり検討会では、事前にケース検討会を行うことで授業自体についての話し合いはもちろんだが、児童生徒の実態や課題、コミュニケーションの深まった姿を多様な観点から捉え、一人一人の変容を共通理解しながら進めることができた。その結果、全職員が気持ちを一つにして授業に臨むことができ、児童生徒同士のつながりやコミュニケーションの深まりにつなげることができた。

今後も、4つの観点を大切にしながら、児童生徒の発信を受け止め、その思いに寄り添う丁寧な授業づくりを進め、個別学習、集団学習で培われてきたコミュニケーションの深まりを大切にしながらに支援にあたっていきたい。そして、卒業後の豊かな生活につながるコミュニケーション力だけではなく、誰かと関わっていて楽しいと思えるような気持ちや感情などの心を育てるために学校生活の中で何を必要とするのか、しっかりと確認し合い、「今」を大切に、じっくりと取組を積み重ねていきたい。

【観点1】(児童)本時のねらいは程度達成できたか。

【観点2】(教師)本時のねらい達成に向けた指導の手立ては有効だったか。

【観点3】(教師)コミュニケーションの深まりを目指した授業づくりが成されていたか。

| | | |
|----------|---|--|
| 【観点1】 | <p>A</p> <p>・指導案「本時のねらい」を参照</p> <p><input type="checkbox"/> ← 達成していたら○ 達成できなかったら／ その理由などを、自由に記入</p> | <p>②</p> <p><input type="checkbox"/></p> |
| | <p>B</p> <p><input type="checkbox"/></p> | <p>②</p> <p><input type="checkbox"/></p> |
| | <p>C①</p> <p><input type="checkbox"/></p> | <p>②</p> <p><input type="checkbox"/></p> |
| | <p>D①</p> <p><input type="checkbox"/></p> | <p>②</p> <p><input type="checkbox"/></p> |
| | <p>E①</p> <p><input type="checkbox"/></p> | <p>②</p> <p><input type="checkbox"/></p> |
| | <p>F</p> <p><input type="checkbox"/></p> | <p>②</p> <p><input type="checkbox"/></p> |
| 【観点2】 | | |
| 【観点3】 | | |
| 【改善に向けて】 | | |